

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

昭路北中学校区 校番 23 学校名 呉市立昭和西小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	児童の学習意欲を高め、学力を向上させる。	個に応じた指導を工夫し、基礎学力を定着させる。	学力に課題がある児童は、国語科7%・算数科7%であった。朝や放課後の学力補充では、つまずきに即した個別指導を組織的・計画的に実施してきた。また、算数科においては、学力調査の結果から実態を把握し、複数体制での指導を積み重ねてきた。これらの取組から、学力の課題が解消されつつあるが、個や学年の実態に基づいた取組を継続していく必要がある。	朝と放課後の学力補充(理科室)においては、学力調査の結果を基に、対象学年を適宜変更しながら実施していく。 ・朝の帯タイムや西風タイムでは、前学年や前単元の内容の復習を取り入れるなど、内容の充実を図る。
		分かった・できた喜びを実感できる授業を行い、学習意欲を高める。	「授業の内容がよく分かる」と実感している児童は、91%であった。学習の流れをくめあて→自力解決→集団解決→まとめ→振り返り>と決め、意図的な対話活動を取り入れながら授業を進めてきた。これらの取組から、自分の考えや意見をペアで伝え合う楽しさを実感している。しかし、ペアで対話したことを全体へ広げ、学びを深めることについては課題がある。	算数科においては、問題の解き方をノートにまとめ、全体で図と式とを関連付けて説明する場を設定する。 ・国語科においては、自分の考えや意見を説明し、質問し合う場を設定する。
		学習習慣を定着させる。	「学年×10分の家庭学習を実施した」と回答した児童は91%であった。中学年・高学年の児童については、自主学習が定着してきた。よいモデルを提示することで、内容の工夫も見られる。家庭学習の習慣が定着していない児童の固定化が課題である。	児童の実態に応じて、家庭学習の内容や量を工夫し、やりきらせる習慣を積み重ねていく。 ・家庭との連携を図りながら、放課後の個別指導を計画的に実施していく。
豊かな心	規範意識を身に付け、自らへの自信を高める。	きまりを守る態度や礼儀を身に付ける。	立ち止まってあいさつ・スリッパそろえ・ろうか歩行の重点3項目ができた児童は83%であった。生活目標として毎日学級で取り組んだことで、守ろうと意識することができ、成果があらわれている。しかし、ろうか歩行については、できていない児童が多くおり、改善していく必要がある。	ろうかを走らない取組の工夫をする。(ポスター、コーンなどをろうかに置く)ろうかを走ることの危険性を定期的に指導し、声かけをしていく。
		自尊感情・自己有用感を向上させる。	「係や当番、委員会やたてわり班活動で、自分の役割を果たしている」と肯定的に回答した児童は98.8%であった。係や当番など責任をもって自分の役割を果たすことで、自己有用感に結びついてきている。また、委員会活動やたてわり班掃除、異学年との交流学習を行うことで、上級生としての意識や先輩への憧れをもつことにもつながっている。今後も継続して取り組み、児童の自尊感情を育てていくことが必要である。	集会やたてわり班掃除など、異学年と交流する活動を今後も計画的に進めていき、上級生、高学年としての役割を果たす経験を積み重ねていくことで、自尊感情を育てていく。
健やかな体	望ましい生活習慣を確立し、体力を向上させる。	望ましい生活のリズムを身に付ける。	早寝早起きをしている児童は91%と、生活リズムが身につくはきている。しかし、学年が上がるにつれて、夜型の生活になったり、低学年のうちから生活リズムが定着していなかったりする児童がいることが課題である。	引き続き、生活リズムについて、身体測定時や学級活動等で指導していく。また体調不良等で保健室来室時に、個別指導していく。
		運動に親しみ、体力を向上させる。	体力テストC判定以上の児童は76%であり、目標としていた90%に届かなかった。また、県平均を上回った項目は、全48項目中、男子が15項目、女子が14項目であり、県平均を上回る項目が減っていることも課題である。(昨年度 男子34/48、女子25/48) 練習時間の確保が難しかったことや、特に女子において運動する児童としない児童の二極化が広がっていることが課題として考えられる。(運動時間が1時間以内の女子が60%)	「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」への参加を声掛けし、運動に親しませる。 ・スポーツタイムで、外遊びで取り入れたくなるような運動(遊び)を紹介していく。
業務改善	持続可能な教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	会議の精選、時間の短縮等に取り組んできたところ、「児童と向き合う時間が確保されている」と感じている教員の割合は93%で、目標値の80%を上回った。	今後も会議の精選や時間短縮、行事の見直しに取り組む、児童と向き合う時間、児童と直接関わる時間(個別指導)の確保につなげていく。
		長時間勤務の削減	時間外勤務が月80時間を超える教職員の人数は、4月2人、5月2人、6月5人、7・8月は0人であり、達成度は93%であった。(昨年度の同時期88%)働き方に対する意識は高まってきているが、年度始め、行事前の時間外勤務が長くなる実態があった。	9月17日から留守番電話を導入し、長時間勤務の削減につなげていく。また、勤務時間管理の徹底、定時退校日の推進等により、教職員の働き方に対する意識を醸成する。